

研究大会テーマ 《 生きる力「命」未来へ ～今、私たちにできること～ 》

一昨年の東日本大震災に続き、本年は九州北部豪雨で多くの尊い命が失われました。自然災害以外でも、いじめや通学途中の事故や虐待など、命について考えさせられることもまた多くありました。

改めて、命の重さ・つながり・命をいただくとは・身を守る、そして命の尊さ、について考えてみたいと思います。 『子どもたちの未来のために』、 今、私たちにできることは・・・

<全体講演>

演題「生きる力「命」未来へ ～今、私たちにできること～」 講師 岡崎光洋 氏

講師は、熊本高校 早稲田大学第一文学部卒。立教大学大学院修士課程修了後、上天草総合病院に勤務。平成6年、臨床心理士資格取得。現在、熊本大学医学部非常勤講師、スクールカウンセラー、熊本心理カウンセリングセンター代表。専門は臨床心理学(心理療法、児童心理、医療心理、家族心理)。医療と教育の現場で臨床業務の傍ら、現代における望ましい子育て等について講演活動を幅広くなされている。

本日は、今回のテーマをもとにご講話をいただきます。

<分科会①>

演題「命と仕事～命をいただく～」 講師 雇用開発協議会 坂本義喜 氏

プロフィール（ご本人による紹介）・・・15歳で親の仕事だった解体業を手伝いの形で始めたが、1週間でやめる。親の勧めで大阪の小売りの板前の修業をし、熊本に帰り市内の大手小売店に就職。現在の奥さんと結婚。子どもが小学校にいるとき、板前から今の食肉加工業に移る。ある時、子どもの一言や、牛のミーちゃんとの出会い。その時ミーちゃんの涙を見て、それから動物たちの涙の意味を感じた。

その涙の意味をたくさん子どもたちに知ってほしいと思い、講演活動を始めた・・・。

<分科会②>

演題「生物の多様性～命の繋がり～」 講師 環境省九州地方環境事務所長 塚本瑞天(ずいてん) 氏

地球上の生きものは約3千万種。40億年という長い歴史の中で様々な環境に適応し進化してきた。これらの生命は一つ一つに個性があり、互いに直接・間接的に支えあって生きている。

生きものたちの豊かな個性と命のつながりを見つめながら、自然・環境・命・親子について考えます。

講師は、永年環境省で国内外の環境行政に携わってこられた。野生生物・自然環境の保護・計画はもとより、世界自然遺産登録や東日本大震災の現地災害対策本部長としてもご活躍。現在は九州地方環境事務所長として地元自治体と協力して、九州地方の環境保全に尽力しておられます。

<分科会③>

演題「身を守るために～現状と予防対策～」 講師 県警生活安全課補佐 今村義彦 氏

昨今多発する凶悪犯罪。未然防止には警察だけでは限界があり、地域住民・事業者・自治体等の官民一体となった「犯罪の起きにくい環境づくり」（地域の防犯力）と、住民一人一人の「抵抗力」（自主防犯意識）の醸成が必要不可欠です。本日は、熊本県下における声かけ・付きまとい等の届け出状況や具体的事例等とともに、防犯対策法を紹介されます。この機会に子どもたちの「抵抗力」を育てましょう。

講師（警部）は、警察官歴34年のうち17年間を生活安全業務に従事され、現在は犯罪防止対策室室長補佐として、主に子ども・女性安全対策を担当しておられます。